

1
教育

プロジェクトに参加した大学院生が 新元素「ニホニウム」の 命名記念式典に出席

3月14日、理化学研究所のグループが発見しアジアで初めて命名権が与えられた新元素「ニホニウム」の命名記念式典が日本学士院で開かれました。埼玉大学もプロジェクトに参加しており、大学院生の山木さやかさん（大学院理工学研究科博士後期課程3年）がグループに所属していました。

式典ではまず、国際純正・応用化学連合（IUPAC）のタラソバ会長が「113番元素がニホニウムと命名された。」と宣言し、理化学研究所の森田浩介グループディレクターから「長きにわたり声援を送ってくださった国民の皆さまへの感謝を込めて命名した。」と挨拶がありました。皇太子さまもご出席され、研究グループの功績にお祝いの言葉を述べられました。

【研究に参加した山木さんのコメント】

命名権が我々のグループに与えられることになったときは、半信半疑な気持ちと共に、ついにこのときが来たんだという気持ちが込み上げました。理研に昔からいる方々の喜びようは相当なもので、その様子を見てこのプロジェクトに参加できてよかったと感じました。実験中は長時間のシフトなど大変な場面もありましたが、特別な経験ができ、本当に幸せでした。



- 1 プロジェクト関係者による記念撮影
森田浩介グループディレクター（前列中央）の後ろに写る山木さん
- 2 【命名記念式典にて】左から山口貴之准教授、酒井隆太郎さん*、山口宏樹学長、鈴木健理学部長、秋山隆宏さん*、山木さん
*本学在学時プロジェクトに参加
- 3 森田浩介グループディレクター（後列中央右）と当時のスタッフ（後列左：山木さん）
【提供：理化学研究所】

2
教育

学生作成のうちわで外国人観光客おもてなし 世界盆栽大会へ さいたま商工会議所とコラボ

3月14日、経済学部の齋藤ゼミ（齋藤友之教授）に所属する学生が、さいたま商工会議所とのコラボレーションにより、4月にさいたま市で開催された第8回世界盆栽大会に訪日する外国人向けへの情報ツールとして、病院やトイレ、鉄道などの14種のピクトグラム（絵文字）を印刷した「うちわ」を作成し、さいたま商工会議所において完成披露会を行いました。



齋藤友之経済学部教授（中央）、さいたま商工会議所佐伯鋼兵衛会頭（中央左）、さいたま商工会議所街づくり・観光委員会井原貴委員長（中央右）

このコラボレーションは、さいたま市が「さいたま市のおもてなしスタイル」をテーマにして平成27年度に主催した「第5回学生政策提案フォーラム in さいたま」において齋藤ゼミの学生が提案した「うちわによるオリンピック



作成したうちわを手に笑顔を見せる学生らの暑さ対策」が最優秀賞を受賞したことを契機に、さいたま市がさいたま商工会議所の街づくり・観光委員会にこの提案をもちかけたことにより始まりました。

うちわのコンセプトは、「コミュニケーション&情報提供!」。表面には教育学部2年中村ジュリアさんが描いた世界盆栽大会をイメージするかわいらしいイラストが描かれ、裏面にはピクトグラムに加えてさいたま商工会議所が運営する情報サイト「マイタウンさいたま」のQRコードを掲載し多言語に対応した飲食店舗情報を、また、指さしの図柄を入れて外国人の道案内をピクトグラムで教えることでコミュニケーションすることを促しています。うちわは世界盆栽大会で配布することやその利用によって得たさまざまな意見を取り入れて改良して、2020年の東京オリンピック・パラリンピック版の配布を目指すとのことです。

10 教育 平成 28 年度 第 2 回学生表彰式を開催

3月8日、平成28年度第2回の学生表彰式を開催しました。この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。受賞者（個人表彰26名、団体表彰1団体）には学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



12 研究 「理工学研究科戦略的研究部門 公開シンポジウム」を開催

1月30日、大学院理工学研究科および研究機構の主催により、「理工学研究科戦略的研究部門 公開シンポジウム」を開催しました。本学は、平成25年度に採択された文部科学省「国立大学改革強化推進事業」の一環として、研究力強化を目的に、2014年4月、大学院理工学研究科に戦略的研究部門を設置しました。このシンポジウムは、同研究部門の取り組みとこれまでの研究成果を学内外に報告す



るために実施され、約140名が参加しました。シンポジウムでは、山口宏樹学長の挨拶の後、戦略的研究部門を構成する各研究領域が、口頭発表とポスター発表による研究報告を行いました。

14 地域 埼玉県高等学校理科教育 研究発表会が開催されました

2月18日、平成28年度埼玉県高等学校理科教育研究発表会（主催：埼玉県高等学校理化研究会）が、本学を会場に開催されました。埼玉県内の高校生が互いの研究成果を発表し合い、本学の教員、大学院生が研究者の立場として指導、講評を行いました。本年度は物理（ポスターセッション18、口頭発表25）、化学（ポスターセッション36、口頭発表14）、生物（ポスターセッション36、口頭発表30）、地学（ポスターセッション18、口頭発表14）が披露され、互いの研究内容について活発な意見交換がされました。休日にも関わらず約500人の高校生、保護者、及び教職員が参加しました。



11 教育 埼玉県課題解決型インターンシップ事業 成果報告会を開催

3月10日、「埼玉県課題解決型インターンシップ事業」の成果報告会を開催しました。この取り組みは、本学が平成28年度より埼玉県から受託し、学生が3ヶ月から6ヶ月間就業体験し、企業が抱える課題解決を目指すとともに、企業に対する理解を深めることを目的としています。初めての実施となる今回は、県内企業6社で実習した8名の学生が、それぞれの実習体験を発表しました。最後に、上條正仁埼玉県経営者協会会長から「インターンシップ参加により、社会人



として将来活躍する上で、自ら考え行動する重要性は十分に理解できたと思います。この事業の今後の発展、展開に大いに期待しています。」と総評が述べられました。

カフェの新メニューを広く知らせる看板を説明する学生

13 研究 報道各社と 「埼玉学術懇話会」を開催

3月16日、本学は埼玉県政記者クラブ加盟の報道各社支局長と「埼玉学術懇話会」を開催しました。この会合は平成18年度より毎年開催されており、大学の動向や研究成果などを紹介するとともに、情報交換を行うもので、当日は約40名が参加しました。第一部では、山口宏樹学長が教育、研究、社会連携・国際化における現在の取り組みを紹介し、さらに、4月に大学院理工学研究科戦略的研究部門に新設する「X線・光赤外線宇宙物理研究領域」などについて説明しました。このほか、健康・医療分野の取り組みなどを例に挙げ、埼玉県との連携による研究力の推進・人材育成の取り組みを紹介しました。



記者発表する山口学長

15 地域 教育実践総合センター開設30周年・教職大学院開設記念教育講演会を開催

2月24日、教育学部附属教育実践総合センター（前身：同学部附属教育実践研究指導センター）が開設して30年、そして平成28年度の教職大学院開設を記念し、國學院大學人間開発学部教授の杉田洋氏を講師として迎え、「アクティブ・ラーナーの育成と日本人間教育—新学習指導



講演する杉田洋氏（國學院大學人間開発学部 教授）

要領の実現に向けて」と題した教育講演会を開催しました。当日は、県内の学校現場の先生を中心に、教師を目指す学生など約100名が参加し、学習指導要領改訂に係る関心の高さがうかがわれる会となりました。